

【News Release】

報道関係各位

平成 28 年 12 月 20 日
一般財団法人 沖繩美ら島財団

台湾 国立故宮博物院所蔵の『清代琉球史料彙編』を出版 ～記者会見開催のお知らせ～

一般財団法人 沖繩美ら島財団は、台湾故宮博物院所蔵の琉球関係^{とうあん}档案（档案とは、公文書のこと）の史料集を出版するための助成を行い、この度、^{しんだいりゅうきゅうしりょういへん}『清代琉球史料彙編』を出版しました。

台湾の国立故宮博物院に所蔵されている清朝時代の外国関係の档案（公文書）の公開出版は、初めてのことです。

下記の日程で内容に関する記者会見を行います。



『清代琉球史料彙編 宮中檔硃批奏摺（上）・（下）』



『清代琉球史料彙編 軍機處档案奏摺録副（上）・（下）』



（付録：『冊封使行列図』）

【記者会見】

日時：2016年12月27日（火）13：30～14：30（予定）

場所：首里城公園管理センター会議室（予定）

※本史料集の詳しい内容について、琉球大学：赤嶺守教授と共同で記者説明会を行います。

【内容】

琉球王国時代の清朝との外交の様子を知ることができる「档案（公文書）」は、現在、北京・台湾の二つの故宮博物院等に保管されています。今回、台湾の国立故宮博物院に保管されている清朝期の公文書群から、「琉球王国」に関する記録を抜き出し、文書の画像と翻刻文でまとめました。

【事業概要】

『清代琉球史料彙編』は、当財団の刊行助成事業によるもので、琉球大学国際沖縄研究所と連携しながら台湾故宮博物院に情報提供を求め、所蔵する档案を史料集として出版する事業です。『清代琉球史料彙編』の「宮中檔硃批奏摺(上)・(下)」は2015年、「軍機處档案奏摺録副(上)・(下)」は2016年に出版しました。琉球関係档案は、清朝側の行政史料から浮かび上がる首里城を中心とした琉球王国の海外交易の実態を垣間見ることができる一級史料であり、史料集の公開により、今後、様々な琉球中国関係史の調査研究が発展していくことが期待されます。

また、史料集は、国立国会図書館、県内の公共図書館・大学図書館等、60の関係機関に72部配付します。

＜お問い合わせ＞ 一般財団法人 沖繩美ら島財団 総合研究センター
琉球文化財研究室／上江洲・久場・安里

TEL 098-886-2020 FAX 098-886-2022

しんだいりゅうきゅうしりょういへん
『清代琉球史料彙編』に関する補足説明

1 用語の解説

档案（とうあん）とは

- ・公文書のこと。中央・地方を問わず様々な役所で処理された案件を記録した公文書のことを档案という。現在でも、档案馆という施設は、日本の公文書館のこととなる。

宮中檔硃批奏摺（きゅうちゅうとうしゅひそうしょう）とは

- ・清朝で宮中に保管されていた档案。様々な役所や官僚から皇帝に提出された公文書に皇帝が自ら朱筆で指示を書き込んだ公文書を硃批奏摺（しゅひそうしょう）という。

軍機處档案奏摺録副（ぐんきしょとうあんそうしょうろくふく）

- ・軍機処とは、清朝期の皇帝の最高諮問機関。それまでの最高の政務機関であった内閣では仕組みが複雑になり、迅速な意思決定が難しくなったため、より皇帝独裁を強めた機関を18世紀前半に創設した。
- ・この軍機処に残された公文書が奏摺録副（そうしょうろくふく）である。
皇帝が直接、目を通し朱筆で決裁・指示を行った公文書や、皇帝の最高諮問機関という重要な部署に残された公文書に琉球に関する記録が残っていたことになる。

2 期待される効果

- ・琉球側に残されていなかった清朝の様々な役所からみた琉球人使節との交流の内容が発見出版された史料群から垣間見ることができ、これまでの視点にない調査研究の可能性が広がってきた。
- ・首里城を拠点とした琉球王国の交易史の様々な出来事が、記録の中に残されている可能性あり、史料の内容を今後、分析することにより首里城公園の展示・運営にも寄与できる可能性がある。
- ・役所が取り扱った記録が残っていたということは、当時のより事実に基づいた第一級の基礎史料を参照しながら、琉球中国交易史の研究を行えるということなる。
- ・特に、『清代琉球史料彙編』は、行書と呼ばれる難解なくずし字で書かれている行政文書が多いのが特徴で、東洋史の専門家でも読解できない古文書である。その難解な古文書を台湾故宮の研究員が楷書に直した膨大な作業を行い、原文画像の横に楷書で読みやすい紙面を挿入している。
- ・全面カラーの史料集であるため、皇帝直筆の朱筆という朱筆の文字なども理解できる。
- ・また、史料集に掲載された新たな知見を紹介すると、1800年に尚温王即位のため来琉した李鼎元（りていげん）・趙文楷（ちょうぶんかい）が載った冠船（冊封使が載るチャーター船）について、福建省の中国側役人が渡海に耐え得るか確認のうえ、琉球側の冊封使を迎えるための役人や航海技術者へも安全性の確認を行っていたことが判った。
- ・船の選定に琉球側の意見も深く取り入れていたことは、これまで確認されておらず、初めて判明した歴史的な事実である。
- ・多くの第一級史料が残されている良好な研究環境が整ったということで、これまで琉球中国交易史を研究してきた研究者だけでなく、若い大学生・大学院生が新たな記録・情報を基に琉球中国交易史研究の担い手となり、この領域の研究が国内外で盛んになる下地を構築したという点でも非常に意義のあるものと思われる。

3 これまで沖縄美ら島財団が実施した琉球関係档案の出版助成に関する実績

1994年に中国の福建師範大学へ助成し、中国第一歴史档案馆（北京故宮博物院内）所蔵の約200万件ともいわれる清朝期の档案の中から福建師範大学の研究者が琉球関係档案を抜き出し、中国第一歴史档案馆が『清代中琉関係档案三編』を刊行した。

【News Release】

- ※1993年『清代中琉関係档案選編』・『清代中琉関係档案続編』が沖縄銀行のふるさと振興基金の助成で中国第一歴史档案馆が出版した。
- 2000年 当財団より福建師範大学へ助成を行い、中国第一歴史档案馆所蔵の档案から琉球関係档案を抜き出し『清代中琉関係档案第四編』を刊行した。
- 2002年 同じく助成事業により『清代中琉関係档案第五編』を刊行。
- 2005年 同じく助成事業により『清代中琉関係档案第六編』を刊行。
- 2009年 同じく助成事業により『清代中琉関係档案第七編』を刊行。
- 2014年 当財団より福建師範大学へ助成を行い、福建師範大学付属図書館所蔵等の漢籍から琉球関係史料を抜き出し『琉球文献史料彙編』（明代巻・清代巻）を刊行。
- 2015年 当財団より台湾故宮博物院へ助成を行い、『清代琉球史料彙編』宮中檔硃批奏摺（上・下）を刊行。
- 2016年 当財団より台湾故宮博物院へ助成を行い、『清代琉球史料彙編』軍機處档案奏摺録副（上・下）を刊行。併せて付録『冊封使行列図』を刊行。